

Baal ma ak!

パールマー アツク

平成28年度1次隊、コミュニティ開発セネガル派遣の門田です。Kaffrine9月号のお届けです。今月は、イスラム教最大のお祭りであるタバスキの1日を体験してみたり、アルティメットフリスビー教室を開催してみたり、セネガルに来てから初めての体調不良に見舞われ首都に上京する羽目になったりと、様々な出来事がありました。そしてまだダカールで療養中です。やりたいことはいろいろとあるのですが、健康でないと全て絵に描いた餅で終わるのだと痛感しています…。早く万全の状態に戻してカフリンに帰り、活動を再開したいものです。

* 上記のBaal ma akとはタバスキの日の挨拶です。日本でいう『明けましておめでと〜』みたいなものですかね。訳すと、『いつもごめんね。』タバスキは日々の罪を反省し、人々に許しを乞う一日ということです。みなさん、Baal ma ak! (返事はBaal naa la ak!と言うそうです。)



タバスキが近づくと町に羊が溢れます

今月の活動内容

calender

9/6	JICAスタッフの来訪
9/10	アルティメットフリスビー教室開催
9/12	祝日(タバスキ/犠牲祭)
9/19-23	前任者の来訪
9/25-	上京

今月の初旬にJICAスタッフがカフリンに来訪し、家のチェックをして帰りましたが、家の工事が全く進んでおらず、寝室に鍵が付いていない、雨漏りが発生している、窓に窓ガラスも網戸も設置されていないという散々な状況であるため、家の工事を進めることを最優先に対応することになりました。その結果、しばらくの間は同居の方と交互に配属先に出動し、片方は家で工事の方が来るのを待つという形になりました。今月の中旬には、私の前任の方がカフリンに遊びに来てくれました。せっかく来ていただいたのに私の方が熱を出してしまい結局2日間ほどしか一緒にできませんでした。地域によく馴染まれていて、セネガルが好きな様子が伝わってきたので、素敵な2年間を過ごしたんだと感じました。活動のヒントもたくさんいただいたので、これからの活動に活かしたいです。

はじめてのタバスキ(犠牲祭)

イスラム教最大のお祭りと言われているのが、このタバスキです。イスラム教の暦に従うので毎年日付が変わるのですが、今年は9月12日がタバスキでした。はじめてのタバスキは、職場の同僚のサルさんのおうちで過ごしました。朝10時過ぎ、サルさんの家に行くと、家の向かいのグランドモスクにきれいな服を着た人がたくさん集まっていた。ほとんどが男の人でした。お祈りをしていたようです。私の到着からほどなくしてグランドモスクから帰ってきたサルさんも、白い素敵なオバサンジョーと呼ばれる民族衣装に身を包んでいました。

そのオバサンジョーからTシャツ&短パンに着替えた後、本日の一大イベント、羊の解体の開始です。元々犠牲祭とは、預言者アブラハムがある日息子を神にささげる夢を見て、翌日、その預言に従って息子を殺そうとしたところ、神が代わりに羊を犠牲とすることで息子を殺さなくてもよいと告げた、といった故事から派生したお祭りとのことです。だからタバスキでは羊を殺して食すことで神に感謝するらしいです。生きた羊がお肉になっていく一部始終を見ました。子供たちもいましたが、毎年のことだからか少しも怖がることなく、羊の解体のお手伝いをしていました。お肉は無駄にするとところが、ほとんどありません。顔の肉も食べるようです。生まれて初めて、動物の息の根を止めて、お肉にして、それを食べるという行為をしました。自分が価値もわからないまま食べているお肉の、本当の価値を知りたいと思っていたので、とても意味のある経験をしたと感じています。最初に肝臓を食べました。そのあと13時ごろに朝ごはんを食べ、そして15時ごろにお昼ごはんとして骨付き肉を食べました。

羊はクセもなく、とても美味しかったです。女の人たちは朝からずっと料理をしていました。大量の玉ねぎをまな板も使わず器用にみじん切りにし、胡椒を突いて粉にしていきます。サルさんの家は15人ぐらいの大家族なので、料理も一苦労のようです。子供たちは羊の解体が終わった後は自由なようで、テレビをみたり喧嘩をしたりと忙しく動き回っています。夕方以降は、新調した洋服を着て、近所に挨拶まわりに行くようです。サルさんの家のお子さんが、あとで親戚のおばちゃんのところにお金もらいに行くの！と言っていたのでお年玉のような文化もあるようです。宗教は違えど、やっていることは日本のお正月とそう変わらないみたいですね。



これから捌かれる羊



女の人是一日中お料理



美味しいお肉になった羊...

おめかしして見せびらかしに
来た近所の子供

アルティメットフリスビー教室開催しました

カフリンの子供に、アルティメットフリスビー教室を実施しました。アルティメットフリスビーはバスケットボールとアメフトを足して2で割ったようなスポーツで、フリスビーをパスでつないでいき、ゴールゾーン内で味方のパスをキャッチできたら得点が入ります。今回、職場のスポーツ課の方に、こういうスポーツがあって、フリスビーを持ってきたから子供に紹介したいんだと話したら、では土曜日に、とトントン拍子で話が進み、開催に至りました。当日は20人弱の子供たちと、スローの練習をしたり、ミニゲームをやったりしました。子供たちも初めての遊び道具に興味を持ってくれたようで、スローの練習もミニゲームも真剣に取り組んでくれました。最後に、楽しかった？と聞くと、楽しかったと笑顔で返してくれたので、とても嬉しかったです。アルティメットフリスビーは、フリスビー1枚で14人が遊べて、セルフジャッジでスポーツマン精神が育て、勝つためにはどうすればいいか仲間と議論するという経験が出来るスポーツです。また、フリスビーは軽く、ボールほどかさばらないので運びやすいです。途上国で青少年の育成目的で普及させるのに最適なスポーツじゃないかな、と思っています。

アルティメットフリスビーはあくまでもツールです。子供がスポーツを楽しむと思い、そこから何かを学んでくれれば素敵だなと思っています。また、私が子供と接し、子供の現状を把握するチャンスを作ってくれるものでもあります。きっとセネガルの人たちに好きになってもらえるスポーツだと思うので、継続的に教室をやっていけたらいいなと思います。



カフリン県のCGEは今どんな感じなのか？

CGEとは何か？
を調査CGEの
現状調査課題
整理課題への対応
方針を検討対応策を
実行

評価

カフリン県のCGE(学校運営委員会)は、機能していない？

CGEを機能するようにする、というのが私の要請です。このような要請があがるくらいなので、JICAはカフリン県内のCGEを機能していない、と認識しているようです。また、配属先の視学官長と最初に話したときに、「CGE, ça ne marche pas. (CGEは機能していないね)」と言っていました。機能していない、とはどういうことでしょうか。私にはそれがよくわからなかったもので、どういう状況のことを指すのか調べてみました。

カフリン県のCGEの状況を把握するために今回用いたもの

【1】PAAMEのプロジェクト関係者の方から共有いただいたプロジェクト報告資料(ドラフト)

⇒2015年-2016年の学期中のCGEの活動状況が数字ベースで確認できる

【2】過去のCGE関連活動隊員の引継ぎ資料

⇒現在CGEで起きているであろう問題が把握できる(地域や時期が多少異なっていたとしても似たような問題を抱えている可能性は高いと判断)

数字から見るカフリン県のCGEの状況 — CGEはあるけど活動していない？ —

CGEは、CGE設立ガイドによってその構成員や必要最低限の会議の頻度、必要最低限の作成物が示されています。カフリン県内のCGEを設置している学校の数はいずれも155校中の151校で、公立の学校全てにCGEが設置されています。しかし、必要最低限の作成物の一つである年間報告書の回収率は151校中の46校にとどまり、割合でみると30.5%となります。カフリン州全体でも、回収率は43.7%で、他の州の平均60.49%よりも低い数値であることがわかります。このように、CGEはあるのにその活動の成果として提出されるはずの資料が提出されていない状況が、CGEは機能していないといわれている一因のようです。PAAMEの報告資料では、カフリン州のCGEが直面している問題として、事務局会合および総会の開催が不定期であること、CGEおよびUCGEドキュメントの提出に大きな遅延が目立つこと、報告書の提出割合が不十分であること、技術および財政的な実行力の弱さ、一部のコミュニティ及び保護者による約束へのリスペクトのなさなどが報告されています。

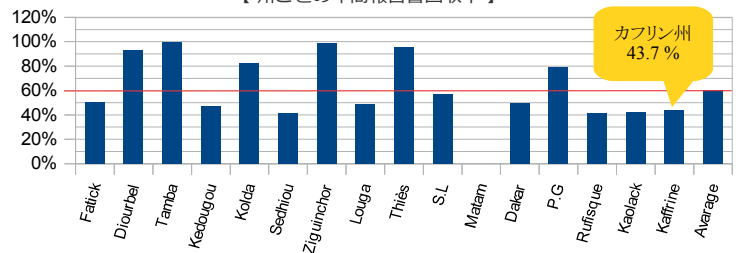
数字ベースの現状のCGE活動状況確認

・カフリン県内のCGEを設置している学校の数 151校 / 155校
⇒ CGE設置率は **97.4%** にのぼる

・年間報告書回収率 46校 / 151校
⇒ 年間報告書回収率は **30.5%** しかない

(Diourbel, Tambacounda, Ziguinchor, Thièsの回収率は9割を超えるので、これらの州の取り組みから回収率向上のためのヒントが得られるかも？)

【州ごとの年間報告書回収率】



過去隊員の報告書から見る学校運営委員会の抱える問題

私はカフリン県教育委員会にCGE関連の要請で配属される隊員としては3代目です。また、セネガル国内の他の地域に、CGE関連の要請で配属されている方がいます。そこで、ここでは先輩方の残した報告資料から、現在カフリン県内のCGEが抱えているであろう問題点を洗い出してみます。

問題点① CGEはあるが、形式的に決められたメンバーと活動計画があるだけで、活動実績が無い

- 原因
- ・活動意欲が無いから活動していない (CGEの活動をしたからといって、どんないいことがあるのか地域の人が理解していない)
 - ・活動の進め方がわからないから活動していない (MTGがうまく進められない、実現不可能な活動計画を立ててしまう、など)
 - ・活動資金が無いから活動できていない
 - ・活動しなくても特に誰かに何か言われるわけでもない (UCGEのモニタリングの役割がうまく機能していない)

問題点② 各CGE、同じような課題を抱えているのに各々で対応しようとしていて無駄が生じている

- 原因
- ・UCGEが情報集約・意見交換の場として機能しておらず、同じような課題を抱えていることすら知らない？

* UCGEとは、CGEのモニタリングを目的として設立されている組織です。

数字に表れているのと同様に、先輩方の残した報告資料からも、活動実績が無いCGEが多くありそうということがわかりました。もちろんCGEの中には、きちんと活動をしていて、実績を上げているCGEもあるようです。ただ、そういった好事例を取り入れようという姿勢が無かったり、情報を共有する場が上手く回っていないという課題も報告されています。やるべきことはいろいろありますが、私の今後の活動方針としては、CGEがうまく機能している事例を発掘し、その情報共有がきちんとされるように整備することが、メリットが大きい気がしています。ただし、ここまでで書いたことは、すべて資料や報告書の情報から推測したことにはすぎないので、早く自分の目で現場を見てみて、本当にそれが優先順位が高いことなのかを判断したいです。

来月の予定

10月に入れば、徐々に学校が始まるらしいです。カフリン県内の学校の現状を把握するため、いくつかの学校を訪問してみようと思います。また、前任の方が力を入れて活動されていたシキロ及びブレルという地域を訪問し、CGEの活動状況を見て来たいと思っています。これまで資料ベースでしか確認できなかったことを、実地ベースで確認していく時期にしたいです。

そのうちやりたいこと

- ・配属先組織図作成 着手
- ・カフリン県地図づくり 着手
- ・地域の掃除
- ・学校の先生の日/年間スケジュールの把握
- ・PTAの歴史調査
- ・仏語・ウォロフ語での活動報告書作成 着手
- ・CGE会報誌の可能性の模索→成果発表会の方が良い？
- ・フリスビー教室 実施
- ・村落部訪問

セネガルは今トウモロコシの季節のようです。まだ食べてみていないのですが、美味しくないと噂です。